# 診断士試験 合格体験記 ①

日本コンクリート工学協会（ＪＣＩ）が実施するコンクリート診断士制度は、６日から２０１０年度の受験申し込みの受付がスタートした。セメント新聞社が例年刊行している同試験の参考書「コンクリート診断士・試験合格のポイント解説」については、今回、学習効率のさらなる向上を目的に内容の改訂・刷新を進めている。刊行は３月後半を予定しているが、これに先立って、09年度の合格者に寄稿していただいた合格体験記を連載する。

## 記述問題は冷静に考察を

㈱特殊高所技術　山口宇玄

私は特殊高所技術という会社で、一般的な足場や高所作業車では近接して調査ができない土木構造物の点検・調査・診断の業務をロープにぶら下がって行っています。

調査業務の対象は、橋梁・ダム・地下構造物等、多岐にわたります。また、「戦前に構造物が完成してから半世紀以上、誰も一度も立ち入った事がなく、竣工図面もない」といったケースが多いのも特徴です。

しかも、施設を維持管理する発注者は、調査対象に近接はおろか、遠望さえできない状況がほとんどです。そのため、発注者には、われわれの調査・診断の精度・品質に全幅の信頼を置いてもらわなければ、業務が成り立ちません。

また、調査診断業務では、その構造物の現状を正しく診断し、必要な補修・補強工事を見据えて、「補修・補強工事に必要なデータを確実に持ち帰ること」、これが強く求められます。

このような状況を踏まえ、自分自身に必要な技能資格としてコンクリート診断士を選び、勉強をしてきました。今回、３度目の挑戦の末、やっとの合格でした。

初回受験時には、午前のコンクリートの○×１００問で見事に足切りにあい不合格でした。

２年目はコンクリート技士試験と診断士試験の両方に出願しました。診断士試験は午前の○×問題も、午後の四択問題も自己採点ではクリアしていましたが、記述Bの問題との相性が悪く、具体的な対策工を説明できず不合格となりました。ただ、技士試験はしっかりと合格したため、３年目の受験では午前の○×問題免除の資格を得られたと同時に、技士の知識があれば、診断士の午後の四択問題も半分は解答できることがわかりました。

３年目は講習会の再受講からスタート。その際に「短期攻略セミナー」のパンフレットを入手。記述問題対策が重要だとの認識から、今年は同セミナーに参加を申し込み、「試験合格のポイント解説」も購入しました。

同書は多くの診断士対策本の中では異色で、記述問題対策が冒頭から始まって内容の大きな部分を占めており、「四択問題は足切りのための試験にすぎない、試験の合否は記述問題できまる」という診断士試験の特性をよく反映したものでした。また、記述問題の参考解答が非常に豊富だったので、片っぱしからノートに鉛筆で書き移すことを一巡やりました。

その後、セミナーに参加した際に、記述式問題を解答する場合の「合理的な一連の作業手順」や、自分が詳しくない分野の問題でどうやって合格ラインの解答を作り出すのかのノウハウも教えていただきました。

セミナー当日の記述式問題の添削は、提出したときは「65点くらいかな？」と思っていたのですが、「非常に良く書けています」との言葉を添削者からいただき、とても自信がつきました。

セミナー後は再度、過去の記述問題を自分の言葉で解答する練習をしながら過ごし、試験直前に四択問題の過去問を復習して試験に臨み、しっかりとした手ごたえを感じて試験会場を後にすることができました。

これから受験される方へのアドバイスは、「四択は楽勝に、記述は冷静に」ということです。四択で苦労しているうちは記述問題などままなりません。記述問題は早合点してあわてて書き出さずに、問題で与えられている情報を冷静に分析し、少なくとも10分はじっくりと考察してから答案を書き始めるのが良いでしょう。「試験問題で与えられている情報を冷静に分析し考察する」ためのノウハウは、ぜひセミナーに参加し、答案の添削を受ける中で磨いていただければと思います。